

「わが町プロデュース！～笑顔がええじゃん尾道～」

本単元で育成する資質・能力

つながる知識

主体性・協働性

思考力・判断力・表現力

- 1 日時 令和5年11月14日(火) 4時限目
- 2 学年 第2学年2組 (男子19名 女子12名 合計31名)
- 3 場所 2年2組教室
- 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、探究的な学習の過程の中で、自分たちが住む地域の町づくりやそれに携わる人々の思いに気づき、地域のよさや課題、自分たちとのかかわりについて考えるとともに、地域のためにできることを考え、企画し、提案していく学習活動に取り組む。その一連の取組において、常に問いや疑問を持ち続け、協働的に課題を解決することで、自分の将来の姿やこれからの生き方について考えていく単元である。

また、本単元で生徒は、「愛し、愛される町とは」という課題設定のもと、地域の歴史や文化、産業、自然等の魅力を見つめ直すことを通して、自分たちの考える「よい町」と、地域住民、観光客の考える「よい町」とを比較し、相違点や共通点を探る。「身近にありながら気付いてなかった地域の課題やよさ」「当たり前だと思っていた地域の特色がもつ問題・価値」などを生徒自身が再発見することで、地域への愛着を育むことにつながると考えられる。この地域に住み、地域の将来を担う生徒たちにとって、これからの生活や人生における様々な課題に対して向き合う意識や解決への意欲を高め、これまで学んできた知識や技能等を総合的に働かせて、仲間と協働しながら課題に粘り強く取り組み、解決していく力を育てることをねらいとしている。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、コロナ禍の中で多感な時期を過ごしてきた。学級での活動や学校行事が縮小・中止になって集団としての活動ができなかったり、感染症拡大以前には実施されていた異学年交流や地域とつながる取組がほぼできなかったりと、体験的な学習や取組が少ない学校生活を送ってきた。そのため、人のために何かしたいという思いはあるが、なかなか行動に移すことが難しく、他者との関わり方に課題があったり、話し合いを重ねながら合意形成を図る活動が苦手だったりする生徒が見られる。

総合的な学習の時間においては、1学期に職場体験学習を行い、その中で事業所の方へ「10年後の尾道がさらによくなるために、工夫したこと、やりたいこと、発信したいことは何か」「県外・海外の人にアピールしたいことは何か」というインタビューを行い、尾道で働く人たちの地元への思いを知ることができた。

本学級の生徒に地元尾道に関するアンケートを行ったところ、以下の結果になった。

質問	肯定的回答
① 尾道は好きですか。	93.3%
② 尾道を大切に思い、住んでいる人のために、自分にできることはしていきたいと思いますか。	86.8%
③ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。	75.4%
④ 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。	20.8%

本学級の9割以上の生徒は、「尾道が好き」であり、8割以上の生徒は「尾道を大切に思い、住んでいる人のために、自分にできることはしていきたいと思う」と回答しており、地元尾道への愛着を感じている生徒が多くいる。「好き」の理由には、「歴史的な建造物や街並みが好き」「尾道ならではの道、寺がたくさんあっていい。景色が良いから」など、今あるものを大切にしたいと思う気持ちをもつ一方で、「景色はいいが、遊べる場所が少ない」「公共交通機関が不便」など、他の都市と比べての課題を感じている生徒もいる。

授業の中で、尾道の観光地・飲食店・インスタ映えスポットなど、おすすめはどこかについて問いかけた際、楽しみながらそれを考えている姿もあったが、その反面、類似した回答が多く、多様に答えられた生徒は少数であった。

以上のことから、本学級の生徒は、地元尾道に愛着を感じながらもまだまだ知らないことが多く、地元に対する思いも、地域発展への意識も、今の自分のことと結び付けて考えることが難しい。そこで、本単元の学習を通して、郷土愛を育成し、「愛し愛される町づくり（自分や周りの人々が幸せを感じる、誇れるまち）」をテーマに、尾道のよさをどのように発信したら、「行ってみたい」「検索してみたい」と感じてもらえるのか、主体的に考えることを通して、他者と関わる力（協働性）や表現する力を向上させる必要があると考える。

(3) 指導観

本単元は2つの探究のプロセスで構成されている。前半は地域発見の事前学習として、街頭アンケートを実施したり、改めて尾道の魅力を発見するための調べ学習を行ったりしながら、修学旅行で行く民泊先へ尾道を紹介するガイドブックを作成する活動を行う。後半は、尾道を「もっと好きになる」「もっと愛される」町にするための企画を考え、市長に提案するという活動を行う。

本単元では、ペア・グループ・学級全体といった単位での効果的な話し合い活動を設定する。それにより、自己や他者との対話を通して自分の考えを深めたり広げたりしながら、他者と協働して課題を解決する力を身に付けさせる。

前半のプロセスでは、「課題の設定」へつなげるために、まず、「情報の収集」を行う。職場体験先の方へのインタビューや尾道についての自分自身の意識調査を実施し、地域理解を深めさせる。「課題の設定」では、この単元を通しての探究課題でもある「愛し愛される町とは」について、自分なりに予想を立てさせる。合わせて、「街頭アンケート」や「地域調べ」「ガイドブックづくり」等、民泊先の方に向けての実践的な活動を進める中で、学習活動に対する意欲を高めさせ、どうすれば尾道に興味・関心をもってもらえるのか生徒に考えさせたい。

街頭アンケートを通じて、地元の方の声や観光客の声を実際に聞くことで、後半の学習に生かせるようにしたい。

後半のプロセスでは、尾道を「もっと好きになる」「もっと愛される」町にするための企画を考え、市長に提案するという活動を行う。自分の考える「よい町」と、地域の方が考える「よい町」、観光客が考える「よい町」を比較させ、尾道がさらに「愛し愛される町」になるよう企画を考えさせ、グループで交流しながらよりよい企画に作り上げていく活動を行う。

これらの活動を通して、生徒たちが、そこから得たものを今後の生活に生かそうとする主体性を高めていきたい。

5 単元の目標

自分たちが住む尾道の町づくりやそれに携わる人々について調べたり紹介したりする活動を通して、地域の特徴や町づくりに携わる人々の思いに気付き、地域のよさや課題について理解するとともに、様々な情報を特徴に応じて整理し、話し合いの中で考えを広げたり深めたりしながら、自分たちが住む町のためにできることを考え、自他の意見や考えのよさを生かしながら課題解決に向け、協働して取り組むことができるようにする。

6 単元を貫く問い

生徒の思考を促す「問い」の設定

①本質的な問い（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

愛し、愛される町とは？

②単元を貫く問い（単元を通して考えを深めていく「問い」）

それぞれの立場の人にとっての「よい町」とは？

③個別の問い（単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等）

- 尾道独自の取組にはどんなものがあるか。
- 尾道のよさとは。
- 訪れたい町とは。
- 住み続けたいと思える町とは。
- 今の生活で困っていることはなんだろう。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①地域の町づくりのための様々な取組とそれに携わる人々の思いがあることを理解している。</p> <p>②地域のよさや人々の思いを掴むために、目的に応じて情報を収集したりインタビューをしたりしている。</p> <p>③人・もの・こととのかかわりが、自分の見識を広げ、今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解したのは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>①地域の町づくりについて、資源を生かした取組や、携わる人々の思いから、地域のよさや課題を明らかにしている。</p> <p>②知識の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択し多様な方法で収集している。</p> <p>③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>④地域の活性化につながる取組について、調査結果や企画内容を、グラフや図、写真等を使って効果的に表現している。</p>	<p>①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>②地域の町づくりについて調べる活動体験を通して、他者の考えを生かしながら、協働して問題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③地域の活性化のために自分たちにできることを企画し、実行することを通して、積極的に社会に参画しようとしている。</p>

8 単元で育成を目指す資質・能力ルーブリック

評価 資質・能力	A	B
つながる知識	今まで学習してきた内容や教科の学習を活用して、新たな発見をしたり解決方法を見つけようとしている。	今まで学習した方法と繋げて情報を整理したり、課題に取り組んだりしている。
主体性	課題解決に向けて自分の意見を持ち、集団の中での自分の役割を考えながら課題に取り組もうとしている。	課題の解決に向けて自分の意見を持ち、課題に進んで取り組もうとしている。
協働性	他者や集団の中で、互いのよい所を引き出し合い、協働関係を築きながら、課題解決に向けて粘り強く取り組もうとしている。また、相手意識を持ち、課題解決に取り組もうとしている。	自他の意見や考えのよさを生かしながら、課題解決に向けて協働して学び合っている。
思考力 ・ 判断力 ・ 表現力	課題に取り組む中で、よりよい解決方法を考えたり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりしようとしている。	課題に取り組む中で、解決方法を考えたり、自分の考えを相手に伝えようとしていたりしている。

9 指導と評価の計画 (全17時間)【本時 9/17】※生徒の思考状況によって、随時変更。

時数	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
第1次 (2)	<p>○今まで (小学校・中学1年生) に地元尾道について学習したことや取組を振り返り、交流する。</p> <p>○職場体験学習で事業所の方が答えてくれたアンケートを共有するとともに、自分たちが行った調査アンケートも共有する。</p> <p>○どうすればもっと尾道を好きになるのか、もっと愛される町になるのかを考える。</p> <p>○民泊先の人へ、尾道を紹介するための方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな内容にすればよいか意見を出し合う。 ・出てきた意見を整理し、自分のテーマを設定する。 		②	①	ワークシート 行動観察
第2次 (3)	<p>○紹介するためのガイドブックを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民泊先の人により興味・関心を持ってもらえる内容にするために、見出しやレイアウトを工夫する。 ・よりよい内容にするために、他の生徒から助言をもらう。 <p>○修学旅行で民泊先の人にできあがったガイドブックを渡す。</p>	①			行動観察

情報の収集

課題の設定

整理・分析

まとめ・表現・創造

生徒の振り返り





民泊先の人と話ししたこと、自分の将来について少し考える機会になったので良かったです。

長崎のことや提さんが住んでいる地域について知ることができました。また、尾道のことについても話しました。たくさん話せてよかったです。

民泊先の方がとても笑顔で楽しんでくれたので、うちまで笑顔になりました。そこから、やはり地元の方とふれ合うのって楽しくて幸せな気分だと気が付きました！

尾道の祭りを知ってほしくて、ベッファーの写真、木の絵をかいた紙とふたをあがました。たくさん話せて、九州弁もよく知ることができて楽しかったです。



<p>第3次 (7)</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p> <p>課題の設定</p>	<p>○地元尾道をさらによい町にしていくための企画を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み続けたい町の条件や今の生活で困っていることについて意見を出し合う。 ・自分たちが考える「よい町」とは何か考える。 ・自分たちが考えるよい町と事業所、地域住民、子供たちなどの考える良い町のイメージは同じなのか比較・分析する。 <p>○市の政策企画課の職員と連携し、市の取組を知る。</p> <p>○市の取組や、比較分析した内容を共有し、班で尾道をさらによくするための企画を考える。</p> <p>○考えた企画を深化させるために地元で活躍する人たちの話を聞く。</p> <p>○まちづくりに携わる人々の思いを踏まえ、地域活性化につながる企画を考える。</p> <p>◆本時 【4 / 7 時間】</p>	②	③	②	<p>ワークシート スライド 行動観察</p>  
<p>第4次 (5)</p> <p>まとめ・表現・創造</p> <p>振り返り</p> <p>生徒の振り返り</p> <div data-bbox="209 1272 954 1585" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>私は、スライドを作るにあたり、どうすればよりわかりやすく見やすいものになるのかを考えて、文字の大きさをレイアウト、文字の大きさを工夫しました。さらに、「空き家再生」の取り組みで自分は何ができるのかを考えました。その中でウーリドフンテンかのサイトを作ることができうが、たので、ウーリドフンテンかについて調べたり、空き家を再生した後どのように活用すれば、尾道の魅力がたくさんの人に伝わるのか考え、アドレスホッパーの人に提供するという方法を見つけました。</p> </div> <div data-bbox="209 1619 954 1832" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>私は本番前にスライドと文章を変えました。その日のリハサルで市長さんに「伝わりやすいか?」「ここを少し改善したい」と思ったからです。急ぎで変更提案が上手くいか不安だったので、自分の思ったことを含めた発表は、市長さんに伝えたと思います。私達の提案でこの尾道の歴史が少し活動はいいと思うし、これを通して、自分たちにできることがあったら、実行していきたいです。</p> </div> <div data-bbox="209 1865 954 2033" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>市長さんに提案したことの中の案で自分たちにできることがあるんだということもわかった。たので自分たちで空き家のことについて自分たちで調べてみたいと思いました。</p> </div>	<p>○中間発表を行い、市の職員からもらったアドバイスをもとに企画を練り直す。</p> <p>○企画内容をまとめ、ゲストティーチャーに向けてプレゼンテーションを行う。</p> <p>○単元の振り返りをする。</p>	③	④	③	<p>スライド 行動観察</p>  

10 本時の展開

(1) 本時の目標

地域の活性化につながる企画書にグレードアップすることができる。

(2) 本時の準備物

- ・ワークシート
- ・タブレット「Chromebook」
- ・モニター

(3) 本時の主体的・協働的な学びを促す手立て

地域発展の企画書をよりよいものにするために、他の人と交流しながら学んでいく場面。

【見所】学習活動5

(4) 本時の評価基準 《思考・判断・表現③》

十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	努力を要する生徒への手立て (C)
○自他の意見や考えのよさを生かしながら、課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら解決に向けて考えている。	○課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら解決に向けて考えている。	○グループや全体で交流することで、課題やグループの企画内容を理解して取り組ませる。

(5) 本時の学習展開

	学習活動 ★主体性・協働性を高めるための活動	◇指導上の留意点 ◆努力を要する生徒への支援	☆評価規準 (評価方法)
導 入	1 前時までの活動を振り返る。 2 本時の目標を確認する。	◇企画書の内容や進捗具合を確認し、本時の活動を意識させる。 ◇学習目標を示す。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">地域の活性化につながる企画書にグレードアップすることができる。</div>			
展 開	3 企画する際の留意点を確認する。 4 企画書を見直し、企画内容を練り直す。	◇地域の活性化につながる企画にするために、実効性のある内容になっているか、留意点を確認させる。 ①自分たちがやりたい内容か。 ②地域の方の思いや、尾道のよさを生かすことができる内容か。 ③実際に地域の役に立つものになっているか。 ◇班で意見交流し、3つの留意点や市の取組を考慮しながら、企画内容がより実効性のある内容になるよう整理させる。	

	 <p>★5 前時に作成した Google スライドを班で修正し、全体で共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>1枚目：企画内容 2枚目：企画理由 3枚目：前回からの改善点</p> </div>	<p>◇参観者からも3つの留意点に対するアドバイスをもらう。</p>   <p>◇班での意見交流の中で出てきた自分たちにはなかった視点や参観者からもらったアドバイスを踏まえて、スライドを作成するよう伝える。また、企画書を仮説として立て、5W1Hの視点をもって具体的に示せるように助言する。</p> <p>◇「～の視点が欠けていたので、～というアドバイスを踏まえて・・・」の形で発表させる。</p> <p>◆発表用のスライドのひな型を提示することで、修正・改善点が伝わりやすい発表を意識することを促す。</p>	<p>☆課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連付けたりしながら解決に向けて考えている。(行動観察、スライド)</p>
まとめ	<p>6 次回の学習内容の確認と、本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>○振り返りの視点</p> <p>①今日の学び ②今後の課題</p>	